

【現状】

- ①本市では、「仙台経済成長デザイン」(H26年2月策定)で『新規開業率日本一』を目標に掲げ、起業支援センター「アシスタ」の開設や、起業家応援イベント「SENDAI for Startups!」等、**起業のすそ野拡大の取り組み**を重点的に実施。
- ②「アシスタ」における相談件数・開業件数は飛躍的に増加し、最新の統計では本市の開業率は**大都市中2位**、また起業家応援イベント「SENDAI for Startups!」は地方最大級の規模に成長。
⇒**本市における起業家のすそ野は拡大し、多様な働き方の選択肢としての「起業」は浸透しつつある。**

【課題】

- ①開業者の内訳を見ると、個人事業主の割合が高い。
⇒「雇用創出」「外貨獲得」「市内総生産向上」といった**地域経済活性化の観点での効果**は必ずしも十分と言えない。
- ②震災以降「地域のため」「社会のため」という動機で起業する社会起業家が増加。
⇒**ビジネスとして持続していくための収益化(マネタイズ)**に課題を抱えている。

【要因】

- ①これまでの支援メニューは起業家のすそ野を広げること注力した内容。
⇒起業後の**事業継続**に対する支援や、ベンチャーや成長志向の高い起業家に対する**成長支援**メニューが不十分。
- ②急成長を後押しするためには、**円滑な資金調達環境**が必要。
⇒民間の支援機関(ベンチャーキャピタル、アクセラレーター等)が地域にほとんど存在しない。

【今後の方向性(案)】

- ①地域経済の活性化を図るため、これまでの「すそ野拡大」の取り組みに加え、地域全体でベンチャー企業や成長志向型の起業家を育成し、**「雇用創出」「域外需要の獲得」「イノベーション」**を生み出していくための環境を構築。
- ②震災以降の起業マインドの変化、やソーシャル・イノベーション創生特区(国家戦略特区)の指定を活かし、社会課題の解決と経済成長を両立する**社会起業家(ソーシャル・イノベーター)**を輩出・育成・支援する環境を構築。